

# とねりこ通信



## 栗原部長はこんな人です。

今後、折に触れて事務所のスタッフを紹介していきたいと思えます。現場の皆さんと接する機会の多いスタッフから始めて、皆さんが会った事のないスタッフまで含めて紹介していきます。また現場の皆さんの紹介も順次していきたいと考えています。もちろん、皆さんの個人情報には細心の注意を払います。もし掲載されるのを拒否したい方は顔写真の撮影に行ったスタッフにその旨お伝えください。

それでは、初回は栗原部長です。栗原部長は皆さんと会社の橋渡し役として、現場の皆さんの意見に耳を傾けて、必要がある場合は会社の検討事項にあげる役目です。

- ☆家族 → 奥さんと二人暮らし
- ☆学歴 → 中央大学 経済学部
- ☆趣味 → 天体の写真撮影 登山

皆さんは意外に思われるかもしれませんが、栗原部長の天体観測は玄人はだしです。アマチュア向けではありますが、天体観測愛好者の雑誌にすでに13回写真が掲載されているのです。信憑性を確保するため実際に写真が掲載された雑誌を載せておきました。

右が栗原部長の天体写真が掲載された雑誌の表紙とそのページです。今年の6月2日の夜11時に火星を撮影したものです。

### 雑誌の表紙



下の写真は皆さんご存知の土星です。輪っかがちゃんと写っています。



アンドロメダ星雲 → 正真正銘 栗原部長が地球から撮影したものです。



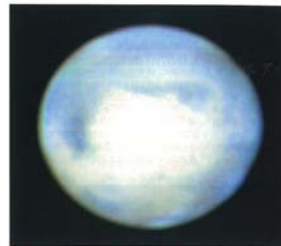
木星です。 →



下のほうの黒い点は、なんとこの星(ガニメデといいます)の影です。

### ■最近のこの火星

今回の接近は正中高度が低いのでシーイングに恵まれないことは織り込み済みだったと思いますが、それより何より、梅雨入り前にもかかわらず、地域によっては連日の夜明けの曇天に閉口した天文ファンも多かったようです。ここでは、30cm鏡と20cm鏡を使用して、モノクロPCカメラによる3色カラー合成でとらえた火星像をご覧ください。



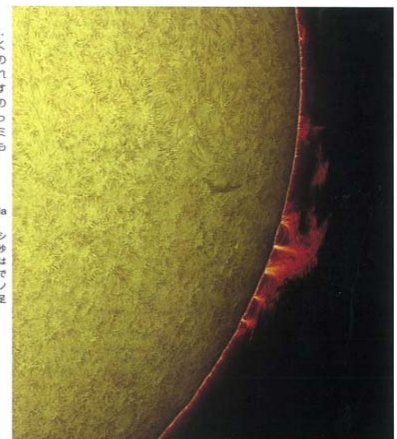
火星 奥野英巳(山口県下関市 66歳)  
2016年5月28日23時10分26秒 素オライオン VX300-S (D300mm F1200mm F4.0 ニュートン反射鏡) テレビュー/ワーム4.0×(合成各20/1000秒×1500フレームもスタック処理 キヤノンPIXUS Pro9500 MarkII出力 キヤノン写真用紙光沢Proプラチナ撮影地/山口県下関市



火星 栗原孝雄(東京都杉並区 58歳)  
2016年6月2日23時01分43秒 セレストロンC8 (D203mm F1032mm F10 シュミットカセ) テレビュー/ワーム4.0×(合成各F37.5) ケンコー SEII赤道儀 セレストロン スカイス618M 光軸色3色分解フィルター 露出L(1/34秒×1800)/RGB各(1/34秒×500) スタック処理後にカラー合成 RegiStax5.1倍で画像処理 デジタルプリントサービス 撮影地/東京都杉並区

### ■6月の太陽

6月、東日本から西日本まで梅雨に入ると、好条件で太陽をとらえることがむずかしくなります。天候の条件もありますが、このところの太陽面は「黒黒島」の目もみられるなど活動は低調気味で、これでは観測する気力もなくなってしまいがちです。この画像は口径10cmのHα太陽望遠鏡を使って露出を変えてとらえた彩層画像とプロミネンス画像を合成し、疑似カラー化したものです。



### 6/18太陽

松岡 勲(東京都足立区 42歳)  
2016年6月18日09時56分 ラントLS100THa (D100mm F700mm F7.0 Hα太陽望遠鏡) テレビュー/ワーム4.0×(合成F28) タカハシEM-10赤道儀 ZWO ASI174MMカメラ 30秒間に撮影した動画から生成 光球とプロミネンスは露出を変えて撮影したものを合成 RegiStax6倍で画像処理 キヤノンPIXUS MG5500出力 キヤノン写真用紙光沢Proプラチナ 撮影地/東京都足立区(草加天文愛好会)